結果を確認するための Viewer ソフトウェアとして、Scaffold DIA が採用されています。
Scaffold DIA では以下の内容が確認できます。

■同定タンパク質並びに定量値のリスト
・サンプル毎の同定タンパク質リスト
・同定タンパク質の定量値
・同定タンパク質の Gene Ontology 情報

同定タンパク質やその定量値がサンプル別に並べられ、その機能や細胞小器官の位置に関する情報も含め、簡単に確認ができます。

■ 同定されたペプチド、query 情報

■同定・定量に使われた クロマトグラム情報の検証画面

同定や定量の結果に関して確からしさを検証する際に利用する画面です。

以下、定量解析結果を表す画面

■　定量値の散布図

2 サンプル間の定量値の分布を確認できます。

■　Volcano plot

変動タンパク質を見つけるためのプロットで、各点がタンパク質、横軸が サンプル毎の定量値の比（のログ)、縦軸は検定の p 値です。グラフの上方で、右側あるいは左側にあるタンパク質ほど有意な変動があった事を示します。

■　その他定量に関するグラフ

■ PCA

（Principal Component Analysis）を実行する事もできます。全体のばらつきに影響を及ぼす「主成分」を見つけ、データの特徴を抽出する解析手法です。

各主成分間でのスコア分布と信頼区間（左下）、
各主成分の寄与率と累積（右上）、
タンパク質の各主成分への寄与を表す分布図（右下）

■保持時間のアライメント結果を表すグラフ

各サンプルの保持時間は解析時にアライメントされますが、その内容について検証する事ができます。

■　同定タンパク質条件の調整

同定タンパク質選定の条件として、Protein FDR とアサインペプチド数　が選択できます。ユーザーの希望に合わせて変更することができます。

■採用されている検定・評価法

- Permutation Test
- ANOVA/ T 検定
- CV (Coefficient of Variation)

また多重検定の評価として、以下 2 手法にも対応しています。

- ホッホベルクのステップアップ手順＆ホルムのステップダウン（FWER）
- BH 法（FDR）